



Title	有機スズカルボン酸塩に関する研究
Author(s)	小原, 光明
Citation	大阪大学, 1968, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/29592
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 ＜a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed >大阪大学の博士論文について をご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

と好収量で、 $X(CH_3)_2SnO Sn(CH_3)_2X$ 型 (X =有機酸残基あるいはフェノキシ基) の化合物が得られることを見出している。この反応では、水溶液中で解離によって生ずるジメチルスズ陽イオンと過剰に存在する(V)あるいは(VI)との間の平衡により生ずる錯体が、重要な役割を果たしていると推測している。

結論では、上記の結果が総括されている。

論文の審査結果の要旨

本論文は、豊富な工業的用途を有する有機スズ化合物の一つ、カルボン酸塩を対象として、スズ-酸素素間の配位結合という観点からの基礎的研究を行なって、つぎのような結論をえている。

- (i) トリアルキルスズギ酸塩は、有機溶媒中で低会合体として存在している。その状態は、結晶状態または液体状態における同じく、有機スズ基が、ホルモキシ基により橋かけされた直鎖を形成している。
- (ii) トリプロピルスズおよびトリブチルスズギ酸塩を熱分解することにより、対応するアルキルスズ水素化物を合成している。この反応は、有機スズ水素化物を合成する新しい反応である。
- (iii) ジメチルスズジクロリドと、種々の有機酸またはフェノールの水溶液に塩基を作用させる反応により、種々の $X(CH_3)_2SnO Sn(CH_3)_2X$ 型の化合物を、好収量で合成している。

以上の結果は、この方面の学術の進歩に新しい幾多の知見を与えるものである。

よって、本論文は博士論文として、価値あるものと認める。